

長野県図書館協会
デジタル版 小中学校図書館部会だより
第146号（28年度）

平成28年度小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館部会小中学校図書館部会
副部会長 長野市立篠ノ井東小学校 鈴木 明

本年度、小中学校図書館部会では、「豊かな学びの中核となる学校図書館～司書教諭と学校司書との連携による読書・学習・情報センター～」をテーマとして取り組んできました。

部会では、司書教諭委員会、学校司書委員会、各コンクール関係、推薦課題図書選定委員会、出版物利用促進、部会だよりの各部門において活動いたしました。

第66回長野県図書館大会は、11月12日（土）に塩尻市レザンホールをメイン会場として、総合文化センター、えんパーク、塩尻西小学校において開催されました。講演会では、猪谷千春先生、鎌倉幸子先生から、「広報のコツ 取材のツボ」のように視点を工夫したお話をトークイベントとしてお聴きしました。また、午後の研究部会では、「司書教諭の役割」「学校司書の立場からの授業支援～できることからはじめよう～」「図書館運営の在り方」「読書指導の在り方（学習センターとしての在り方）」「読書指導の在り方（情報センターとしての在り方）」の分科会の準備と運営にあたりました。前回の部会だよりに紹介されたとおり、有意義な会となったのではないでしょうか。自校の実践に活かしたいという感想を大変ありがとうございます。

また、各地区の学校図書館教育研究大会では、北信地区が須高支部、南信地区が下伊那支部の企画にもとづいて行われました。平成29年度は、北信越地区学校図書館大会が長野県で行われます。学校図書館に求められている機能をいかに実践できるかなど、今後の研究や実践の積み重ねが期待されます。

読書感想文、読書感想画コンクールにあたっては、全県より作品が寄せられました。各支部の取り組みに感謝いたします。県下の子どもたちの息づかいが伝わってくるようでした。

最後になりましたが、本年度の小中学校図書館部会の活動にご協力いただきました皆様に御礼を申し上げるとともに、来年度長野上水内地区で行われる第67回長野県図書館大会及び北信越地区図書館大会へのご協力をお願ひいたしまして活動報告といたします。

第40回 全国学校図書館研究大会 神戸大会 参加報告

小川村立小川中学校 松下寿

【大会概要】

- 1 主催 兵庫県教育委員会 神戸市教育委員会
公益社団法人全国学校図書館協議会
兵庫県学校図書館協議会
- 2 後援 文部科学省 兵庫県 神戸市
兵庫県市町村教育委員会連合会
- 3 協賛 兵庫県立図書館 兵庫県図書館協会
兵庫県立学校長協会 兵庫県中学校長会
兵庫県小学校長会
- 4 研究主題 「アクティブ・ラーニングを支える学校図書館の在り方」
- 5 趣旨 今、教育界で話題になっている学習手法である「アクティブ・ラーニング」を取り上げ、能動的な学習意欲を高めるために、学校図書館がどのように役立つか、またどのようなことができるのかという可能性を探ることを目的として、講義、報告、ワークショップ、実践発表等さまざまな視点からのアプローチを試みる。
- 6 会場 神戸国際展示場 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
- 7 期日 平成28年8月8日（月）～8月10日（水）



【大会内容】

1 研究主題・基調提案

本大会の研究主題は、「アクティブ・ラーニングを支える学校図書館の在り方」は新学習指導要領の改訂の主課題の一つに即応したものでした。「学習センター」、「情報センター」、「読書センター」と3センターを同列に論ずることも学校図書館法の改正以来、学校図書館の機能として求められていることです。「学習・情報センター」とされていたものが、子どもたちの学びを深め、獲得した知識を活かしていく力に培う「学習センター」と情報を活用する能力に培う「情報センター」機能に分けて位置づけられました。このことにより、確かな学力保障の場であるとともに「学校教育の中核」としての学校図書館を位置づけるという提案は来年度の北信越図書館大会にもつながるものと考えられます。

また、「アクティブ・ラーニング」を主体的・協働的学習として児童生徒に求められる力を「問題解決能力」ばかりでなく「問題発見能力」の両方が備わってこそ生きる力になると想えることも示唆を与えていました。しかし「アクティブ・ラーニング」は「アクティブ・ラーニングの視点」からの授業改善という文脈で論じられるようになってきた昨今の潮流を考えてみますと、①「深い学び」②「対話的な学び」③「主体的な学び」の視点から考えていくことが今後はより求められると思われます。

2 記念講演会

講師は作家、岡田淳先生で演題は「物語と子どもたち」というものでした。神戸市の小学校教員出身の児童文学作家の講演でした。神戸市兵庫県ばかりでなく日本的に有名な作家でしょうが、研究主題とは直結せず、むしろ古き良き時代の読書の楽しみを参加者も感じたように思います。分科会にも本を通して子どもたちに伝えたいこととして作家のあまんきみこ氏と中川なをみ氏の著者との対話や講演があり、外してはならない読書センター機能をもつ学校図書館の役割を感じさせていただきました。

3 分科会

分科会は、PCソフトや児童書・絵本・原画の展示の分科会を除いて全105分科会に及ぶやものでした。小学校、中学校、高等学校に分かれ発表形式も講演、講義・報告、実践発表、研究討議、シンポジウム、実践講座、展示分科会などに多岐にわたっていました。また発表者は全国の実践者はもちろん図書館教育、読書教育の研究成果に関して大学教員からの発表も多くありました。参加者の司書教諭、学校司書ばかりでなく公共図書館司書をはじめ多くの参加者のニーズに応えていたように思います。

「アクティブ・ラーニングを支える」という主題であることから、「教科指導における読書教育：地歴公民」、「教科で活用する学校図書館：数学・家庭・体育」、「考える楽しみを鍛える理科読」、「読書感想画の指導」など国語ばかりではなく全教科と学校図書館を「アクティブ・ラーニング」と結びつけようとする試みがなされました。

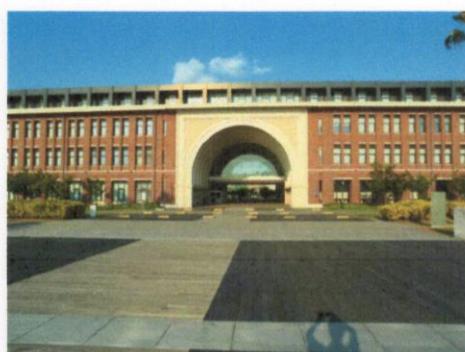
図書館運営にかかわっても、「図書委員会活動を活性化する」、「生徒が主体的に活動する」や「オリエンテーションのありかた」、「日常の貸出や読書会」などのほか「学校・家庭・地域と連携した読書活動の在り方」などもみられました。また「司書教諭と学校司書の連携」も参加者のニーズになっており、「学校図書館ブックトーク」、「ビブリオバトル」、「ビブリオトーク」、「ブックトーク」、「読書会」、「味見読書」、「処方読書」など様々な読書への誘いの方法を体験するワークショップを兼ねる分科会もありました。

さらに「電子書籍の現状と学校図書館」・「デジタル時代の学校図書館メディア」・「ICTを活用した探究型学習と学校図書館」や「特別支援学級への支援」など「学校図書館における新しいサービスの創出」など新たに時代に対応した学校図書館を考えるものもみられました。



4 まとめ

猛暑の中でしたが、全体会、分科会の会場は、開催都市神戸ならではの素晴らしい環境にありました。研究主題は時代に即応し、分科会の多くは、そのテーマに迫るものであったように思います。その意味からも3日間開催は妥当とも思えました。参加者は立地条件もあり北は北海道から南は沖縄まで全国に渡っていました。参加者も学校図書館ばかりでなく国立国会図書館はじめ多くの公立図書館の司書の皆さんとの意見の発表がありました。学校図書館協会の組織は高等学校と義務教育学校が一体となり、県立学校長（高校）と義務の校長が隔てることなく共に運営に携わっていました。長野県は公立図書館との連携を特色として打ち出すことも可能のように思います。また公開授業との関連も特色です。第29回北信越地区学校図書館大会につなげていきたい。



分科会会場の神戸学院大学

支部だより

安曇野支部

安曇野支部代表 安曇野市立堀金小学校 勝家 昌昭

安曇野支部は、小学校10校、中学校7校で構成されています。

旧5町村(豊科町・穂高町・明科町・三郷村・堀金村)にある各安曇野市公共図書館と連携して、子どもたちの読書活動の推進のため専門性を学び合っています。今年度の活動内容は次の通りです。

(1) 第39回長野県読書感想文コンクール募集と支部審査

◇ 市内17校の司書教諭による感想文の集約、支部審査

*支部応募数・・・小学校102 中学校202
*県への応募数・・・小学校 27 中学校 11

(2) 研修会への参加

① 8月 4日 「本の修理方法と読み聞かせの講習会」

* 講師：安曇野市公共図書館職員

② 10月16日 県図書館協会連続講座 於：豊科図書館

「学校図書館から広げる豊かな心と学びの力」

*講師：千葉県袖ヶ浦市立昭和小学校

司書教諭 佐藤 香 先生 学校司書 和田幸子 先生

◇図書館を利用した調べ学習の取組について

◇調べ学習のワークショップ体験(豊科図書館内)

③ 10月24日 司書教諭と学校司書との合同部会

*講師：一般社団法人ビブリオポルトス代表 小松雄也 先生

◇ 国語の授業(中学校3年) 「ビブリオバトル」を参観し、小中学校に分かれ
て情報交換。

④ 11月12日 第66回 長野県図書館大会への参加

「一人ひとりに寄り添う図書館になろう」

⑤ 11月22日 県図書館協会連続講座 於：安曇野市立 堀金小学校

「探究学習における学校図書館の役割」

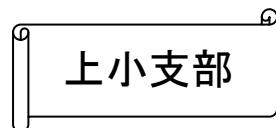
～図書館入門からお試し読書・探究学習～

*講師：大阪府 清教学園中・高等学校探究科

図書館リブライア館長 片岡則夫 先生

(3) 定例司書部会 ◇ 年間8回開催

- ・図書館システムの確認及び活用
- ・図書館内の装飾(ペーパークラフト)づくり
- ・図書館オリエンテーション情報交換
- ・蔵書点検 ・研修報告会 等



上小支部

上小支部代表 上田市立城下小学校 塚田 量

上小支部では、小学校33校と中学校16校（併設校1校）で構成されている。管内の図書館関係施設・諸団体（公共図書館6館、上田情報ライブラリー、長野大学附属図書館、上小東御親子読書の会）と連携して、以下の活動を進めてきた。

1 活動内容

(1) 研修会

①講演会

○期日・場所 7月11日（月） 上田図書館

○講演 演題 「地方自治体における学校図書館政策」

○講師 上田女子短期大学講師 木内公一郎 先生

②講演会 （上田市・上田市教育委員会・書店組合との共催事業）

○期日・場所 10月23日（日） 丸子文化会館セレスホール

○講演 演題「本の力・図書館の魅力」 ○講師 辻村深月さん（作家）

③実技講習

○期日・場所 2月2日（木） 上田図書館

○内容 「ブックトークってどうやるの？」ブックトークの基礎から実践

○講師 小諸高等学校 学校司書 蓬田美智子 先生

(2) 第66回長野県図書大会（塩尻市）への参加

①期日・参加者 11月12日（土） 22名

②レポート発表 小池和枝さん（依田窪南部中） 武田道子さん（丸子北中）

(3) 第39回長野県読書感想文コンクールへの募集と支部審査

①上小支部審査会 9月15日 第四中学校にて

②応募総数 208編（小学校 128編 ・中学校 80編）

③県送付代表作品 57編（小学校 42編 ・中学校 15編）

2 活動を振り返って

○各学校の呼びかけによって、読書感想文コンクールへの応募学校・応募点数が小中とも増えている。

○連携している上小管内の図書館関係施設・諸団体のお力もあって、研修内容が充実してきている。

図書館職員等ステップアップ研修 参加報告

ステップアップ研修に参加して

安曇野市立三郷小学校 高山みゆき

「学校図書館から広がる豊かな心と学びの力」として、千葉県袖ヶ浦市立昭和小学校の司書教諭の佐藤先生と司書の和田先生に実例を挙げての講演をしていただきました。昭和小学校の図書館活動では、各学年の調べ学習を国語・社会・総合などと様々に行われています。調べ学習することで、図書資料を参考にしようとする児童・指導者が増え、その効果としてレファレンス(読書相談)数や資料の物流が増えているという羨ましい報告をされていました。図書館の活動が活発にされたことによりさらに選書の幅も広がり環境づくりに役立っているそうです。また、校内に読書教育推進委員会を校長・教頭・教務主任・学年代表・司書教諭・学校司書から構成されて設置されています。そのことにより、よりスマーズに学校図書館の活動が行われ、みんなの図書館という意識につながっているようです。

私もこのような活発な図書館となるようにさらに学び、図書資料が有効に利用されるように努力しているこうと思います。

図書館協会 ステップアップ研修に参加して

長野市立櫻ヶ岡中学校 山崎 裕子

連続講座①は豊科近代美術館に隣接する瀟洒な建築が印象的な学習センターを会場に、千葉県袖ヶ浦市立昭和小学校の先生方のお話を伺いました。市物流システムの充実、学校内の読書教育推進委員会設置など意欲的な環境整備や、学校全体を巻き込んだ図書館活動が児童の調べる力を向上させるようすがわかりました。さらに学校内だけでなく様々な公共施設と連携した取組みが紹介され驚きの連続でした。特に郷土博物館協力のガラスケース展示（原人頭骸骨のレプリカや恐竜の骨など！）と保護者相談会の事例は、可能性の広がりを感じられワクワクしました。後半のワークショップでは参加者が班ごとに与えられたテーマについて調査・発表を行いました。短時間で調べてまとめて発表する体験は生徒の目線がわかり大変有意義でした。

②の片岡先生の講座では、卒業研究の参考文献を基に読み解力に見合った本を購入し蔵書を充実させていく方法が紹介され、生徒のニーズに計画的に応える具体的なヒントを得られました。「図書館入門」は視覚的に示す手法などオリエンテーションで早速取り入れたいテクニックが満載。先生の「学校図書館は多様性」という言葉は特に印象に残り勇気づけられました。生涯にわたり知的欲求を満たしてくれる図書館。その最初の入り口である学校図書館との出会いはとても大切だと思います。興味と関心を引き出す図書館を目指し今後もこのような研修に積極的に参加したいと思います。

読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

長野市立豊野東小学校 宮尾 弘子

平成28年度、第39回長野県読書感想文コンクールについて報告します。各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：361校

◇応募作品数：3898編

◇県入選（県応募）作品数：706編

◇県入賞作品数：257編

◇中央審査会応募作品数：8編 うち、全国学校図書館協議会長賞 1編

※小・中合計数で表示

応募校数は昨年度と同数でした。応募作品総数は昨年度に比べ、減っています。しかしながら、今年度も多くの力作が寄せられました。中央審査（青少年読書感想文全国コンクール）において、全国学校図書館協議会長賞を受賞した作品も生まれました。例年と変わらぬ各支部の呼びかけ、各校の取り組みに感謝します。また課題図書を精読し、多くの感想文を審査いただいた支部・県審査委員の先生方に感謝申し上げます。

県審査員の先生方からは「内容はとても良いのだが、誤字脱字がある、原稿用紙の使い方が正しくない、字数制限に合わない等の理由で入賞できなかった作品が幾編かあった。非常にもったいないと感じた。」というご指摘がありました。

一方では「日常の生活の中での具体的な体験、経験などを、主題としっかりと重ね合わせながら、生き生きと表現している作品があり、引き寄せられる思いがした。」「人の生き方に学ぶ姿勢が見られた。」「子どもたちの感想文を読むことは自分も勉強になります。一生懸命な子どもたちの姿に触れ、自分も頑張ろうという思いになります。」等の貴重なご意見もいただきました。課題の改善に努めるとともに、より多くの作品が寄せられますよう尽力してまいりたいと思います。今後も関係の皆様の読書の啓発、作品応募への継続的な働きかけをお願いいたします。

また、平成28年度の読書感想画コンクールについては、各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：24校

◇応募作品数：328点

◇中央コンクール応募作品数：11点

※小・中合計数で表示

応募数、応募校数とも昨年とほぼ同数の作品の応募がありました。小学校では学級単位、中学校では部活動制作としての応募がありました。本の内容を理解し、そこから想像を膨らませ、楽しみながら描いている作品が多くなったように思います。表現方法も多彩で、絵の具を用いたり、紙を貼り付けたりと、工夫が見られました。多くの作品に指導者の先生方のご指導の成果を感じされました。

最後になりましたが、応募していただいた児童生徒の皆さん、応募に際してご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。今後も、読書生活をより豊かにするための両コンクールでありたいと願っております。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第146号

発行日 平成29年2月14日

発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内

長野県図書館協会 小中学校図書館部会（代表 和田 敦）